

令和2年度 下水道への紙オムツ受入実現に向けた検討会（第1回）
議事概要

日時：令和2年10月28日（水） 14:00～15:35
場所：TKP 新橋カンファレンスセンター 16階 ホール16A
（Microsoft Teams を用いたテレビ会議を併用）

議事概要

（今年度の検討会及び技術分科会の進め方について）

- Ba タイプと Bb タイプは大きく異なるものだとの認識である。今後のロードマップ策定にあたっては、Ba タイプと Bb タイプは分けて記載すべきではないか。
- 高齢者施設における下水投入前の処理段階における感染リスクについて、議論される予定はあるか。ユーザーとしては一番不安に思われる部分だと思う。
⇒ 前提として、感染性廃棄物は紙オムツ処理装置では処理しない方針。運用方法について、今後の社会実験ではこのような観点からも効果を確認したい。（事務局）
- 社会実験において、紙オムツ処理装置による処理済みの紙オムツが生じると思うが、これは焼却処理とリサイクルのどちらに供される想定か。
⇒ 社会実験では焼却処分を想定しているが、紙オムツ処理装置から排出される成分をリサイクルすることも検討したい。（事務局）
- 各種の検討が進展している。今回の実験において、A タイプ、B タイプそれぞれの装置排水から微量の SAP が検出されたことは一歩前進である。その量をどう評価するかが今後の課題であろう。
- 宅内排水設備が使用者によって適切に維持管理されるかという点には懸念があるため、維持管理の検討組織を立ち上げるなどの対応が必要かと考えている。
- 地方公共団体としては保守管理に不安がある。
- 下水道に未接続の区域は合併浄化槽での処理が行われているが、そうした地域への周知についてはどのようにお考えか。
⇒ 下水道に接続している処理区域を前提。ご指摘の点は環境省や農林水産省と調整しつつ、検討したい。（事務局）
- 実験データは今後の判断を左右する重要なものになるかと思う。どのような項目をどのような手法で分析される予定かご共有いただきたい。

以上